

**短期  
101****映画としてのアメリカ****オンライン併用**

【会場定員】150名 【オンライン定員】100名 【受講料】 2年会員3,350円 1年会員3,770円 聴講生5,020円

短期集中 【時間】毎回10時30分～12時00分 (計3回)

## 概要

アメリカは多くの映画を作り出したばかりか、色眼鏡をかけるように映画を通して自分たちの社会、そして世界を見てきた。それだけに映画からアメリカの時代精神とその変化を読み取ることができる。この講義では、よく知られた三つの作品を通して映画から見たアメリカとその変容について考えてみたい。なお、取り上げる映画は事前にご覧になるようお願いします。

回	月/日(曜)	会場	学習内容	講師名(敬称略)
1	4/9(火)	新百合21ビル B2 多目的ホール	『風と共に去りぬ』のスカレットは、なぜレット・バトラーを置いて、アシュレイを追いかけるのか。このプロット・デバイスのなかに潜むアメリカ社会における南部について考える。	東京大学名誉教授 藤原 帰一
2	4/16(火)		アメリカ映画におけるスターとは何か。『ローマの休日』でハリウッドにデビューし、同じような役を演じ続けたオードリー・ヘップバーンについて考える。	
3	5/14(火)		『ゴッドファーザー 第1部・第2部』の新しさは何だったのか。移民社会の変容の中でニューハリウッドについて考える。	